

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属： IR・情報センター

名 前： 久保幸貴

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2026年5月28日

教員氏名：久保 幸貴

所属：IR・情報センター

1. はじめに

九州ルーテル学院大学は人文学科と心理臨床学科を擁する人文学部のみで構成されている大学でありいわゆる文系の大学である。そのため理系科目よりも文系科目に重点が置かれることは言うまでもなく当然のことである。しかしながら、それは文系学生が理系科目に対して一切わからないままでいいということではない。理系の学問で必要となる基礎的な事項はもはや『常識』としてすべての人が知っていなければいけないものである。また、政府が2019年6月に策定した「AI戦略2019」においては、「リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する」とされている。このように、文系においても数理教育はもはや必須のものと考えられており、すべての大学において数理系の教育が求められている。

2. 教育の責任

上記のように「すべての大学で数理系の教育が必須である」ことを受け文系の大学である九州ルーテル学院大学でも数理系の教育が求められている。その中で私は以下のような授業を担当している。

(1) 授業科目の担当

- フレッシュマンゼミ：2025,2024,2023
- 情報基礎：2025,2024,2022
- 情報活用基礎：2025,2024,2023
- 情報表現論：2025,2024,2023
- 情報検定演習Ⅱ：2023
- 心理データ解析：2025,2024,2023
- 生活：2025,2024
- 生活科教育法：2025,2024
- データサイエンス概論：2025,2024
- 基礎の数学：2025,2024,2023
- 生活と自然科学：2025,2024

- 特別研究: 2025,2024,2023
- 卒業研究: 2025,2024,2023

■ 主要授業科目

生活科教育法

■ 非常勤講師

(2) 教育組織運営

- IR 情報委員会：IR 担当（学生のアンケート結果等の集計・分析など）
- 共通教育部会：共通教育に関する検討
- ICT 教育部会：ICT を利用した教育の検討

3. 教育の理念

文系学生において特に敬遠されがちな理数科目の教育を行う者として特に以下のことを重要視している

(1) 理念 1：苦手意識をもたせない

数理系科目が得意でない学生の数理系科目への苦手意識は非常に高い。

そしてそれは「苦手だからやりたくない」「苦手だからやらなくてもいい」などといった形で学習意欲の低下と学習機会の損失を招く。理数系科目が苦手な学生に教える際には、まずその学生に理数系科目が苦手という意識を捨て去ってもらうことが有効である。

(2) 理念 2：丁寧に説明する

理数系科目が苦手な学生にとっては、省略された部分がある「行間を読まなくてはいけない」説明は非常に難解なものになる。簡潔な説明は熟達した学習者にとっては美しいが初心者にとっては高すぎる壁となって初学者の意欲を奪うものである。これを回避するために特に理数系科目

に苦手意識を持っている学生には非常に丁寧な説明が必要となる。

(3)理念3：得た技術・知識を活用させる

授業で得た知識や技術は単位を取るために教授されたわけではない。授業によって得た技術や知識によって授業前と後で学生のスキルやものの見方・考え方に変化が生まれているべきである。そうした場合、授業で得た新たな知識や技術を学生が自分のために役立てることができるように導くことも教育の重要な役割である。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

(1) 苦手意識を持たせないために

導入部分を特に丁寧に行うことで学習の出鼻からくじかれるようなことが起こらないように気を配っている。また、各内容に関してどのような例に当てはめられるのかを身近な例で示すことで親近感のある内容になるように心がけている。

(2) 丁寧に説明するために

学生が説明の行間につまずいてしまわないように詳細な説明を示した授業用のテキストを作成し公開している。特定の PC ソフトの操作習得が目的の場合には PC の画面のキャプチャに説明を書き込んで簡単な説明をするとともに、別途詳細なテキストでの説明も加え、説明の跳躍がないようにした。

(3) 得た技術・知識を活用させるために

学生たちが授業で得た技術・知識を授業外でも活用していけるようにするために、授業の題材はできる限り学生たちの身近なものを選んでくるように努めた。例えばデータを扱う授業では有名飲食店の商品の重量データを収集したものをを用いたりした。

5. 教育改善のための努力

KLC ムードルではフィードバックという機能をアンケートとして使うことができる。これを用いて授業後に匿名アンケートを実施し、学生の感じた授業の難易度と授業に対しての要望を毎週収集した。また質問等を受け付けるフォーラムの設置や学生からの要望に対するリアクションを適宜行った。

(1)改善努力1：授業評価アンケートと授業改善報告書

大学の実施した 2020 年前期の授業評価アンケートによると「グループワークやディスカッションの機会があった」「課題などの提出物にフィードバックがあった」「意見を求められたり質疑応答の機会があった」に関してネガティブな結果が出ている。グループワーク等に関してはコロナウィルス流向下の現在では解決が難しい。フィードバックに関しては、当該科目は何度でも課題の再提出を許していたのでフィードバックを詳細に書きすぎるわけにはいけなかったが、ある程度はフィードバックを記載していた。ただし提出が遅かったものとフィードバックを付けるべきではないと判断した内容（内容に問題がないものや、自分でもう一度見直して修正すべき内容）に関してはフィードバックをつけなかった。また課題の提出期間中に何度もフィードバックをする機会があったため十分であると判断し、締め切り後にはフ

ィードバックを行わなかったのがこの結果につながったと考えられる。以降は課題締め切り後にもフィードバックを付けるように努力する。質疑応答の機会に関しては KLC モードル上に質問可能なフォーラムを設置、匿名アンケートの自由記入欄、メッセージ機能による質問の受付、授業時間内にはいつでも質問を受け付けることを明言している、といった努力を行っていたので質問する機会と方法は豊富に用意されていた。おそらく直接学生に向かって教員側から意見や質問を訊ねることが必要だったのだろう。以降はそれを行うように改善する。

2021 年度以降の授業においては学生から質問を受けやすいように黒板の前から一方的に内容を話すような授業にならないように、適宜質問を受け付ける時間を作り机間を巡回して質問しやすい時間を作った。例えば 2024 年の情報活用基礎や情報表現論に引き続き、2025 年度においても授業評価アンケートの自由記述欄でこのような取り組みに対する肯定的な記述が見られた。

(2)改善努力2 KLC モードルの機能を用いた授業の改善（毎回の授業における独自の授業アンケート、フォーラム等を用いた質問の受付、迅速な授業資料の追加）

上記の改善努力1は大学の行ったアンケートをもとにしたものであるが、私は独自に KLC モードルのフィードバック機能を用いて学生から毎週意見を聴取し、学生の理解度や要望を把握することに努め、適宜授業内容にフィードバックを行った。また学生からフォーラムや匿名アンケートに寄せられた質問に対して解説を行い公開したり、授業資料を pdf 形式でも提供してほしいという要望を受け、以降の授業資料に関して毎回 pdf 形式のものも追加で公開するにしたりした。

6. 教育の成果・評価

2025 年度後期の授業評価アンケートの結果は以下の通りであった。情報活用基礎(履修者 17 人、回答者 10 人)では、「④理解がしやすいように教え方が工夫されていた」が 4.80 (全体平均 4.50)、「⑩全体として授業が役立つものであったか」が 4.80 (全体平均 4.58) と、いずれも全体平均を上回った。一方、「⑦グループワークやディスカッションの機会があった」は全体平均を大きく下回っており、Excel の操作習得を目的とする演習科目という性質上、グループ活動を取り入れることの難しさが課題として残った。基礎の数学(履修者 24 人、回答者 20 人)では、「④教え方の工夫」が 4.75 (全体平均 4.49)をはじめ、「⑥フィードバック」(4.50)、「⑧質疑応答」(4.50)など多くの項目で全体平均を上回った。ただし「⑩役立ち度」は 4.40 (全体平均 4.58)と唯一全体平均を下回っており、数学の学習を実生活に結びつける工夫のさらなる充実が今後の課題である。

7. 今後の教育に関する課題と目標

2025 年度においては、前年度の課題を踏まえ、より具体的な演習を取り入れた授業改善を継続して実施した。各授業科目において、実生活に密着した事例を用いた演習を取り入れることで学生の興味を引き出す工夫をさらに進めた。今後も、数理・DS/AI の知識は社会においてますます必要とされるものであるため、これらの教育に継続して力を入れていくことが重要

である。また、急速に普及する生成 AI ツールの教育への適切な活用と、学生の AI リテラシー向上についても取り組んでいく必要がある。

2026 年度からは Moodle にアンケートを設置していなかったデータサイエンス概論についても簡単なアンケートを設置し、学生の意見・要望の収集を始めている。

【根拠資料】

- ・各担当科目シラバス
- ・各授業評価アンケート
- ・Moodle 設置の授業アンケート